

2017年

10月28日(土)

13:00~17:00

一般公開

どなたでも参加できます

入場無料・申込不要

筑波大学
東京キャンパス
文京校舎 134 講義室

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

話題提供

田中 樹 (総合地球環境学研究所)

西アフリカ半乾燥地の脆弱環境に内在する
地域ポテンシャルの発掘と活用

石田 紀郎 (NPO 法人市民環境研究所)

アラル海調査20年と旧湖底植林の報告

山中 典和 (鳥取大学乾燥地研究センター)

中国における乾燥地緑化の現状と課題

パネルディスカッション【司会】窪田 順平 (総合地球環境学研究所)

【パネラー】田中 樹、石田 紀郎、山中 典和、大塚 健司 (アジア経済研究所)、吉川 賢 (岡山大学)

乾燥・半乾燥地域における砂漠化、あるいは土地の荒廃が世界的に重要な課題であるとの認識が高まる中、本学会が1990年に設立され、2年後の1992年に国連砂漠化対処条約が締結され、既に30年近くが過ぎました。この間、砂漠化防止という課題解決に向けて、研究のみならず、国際的な大規模プロジェクトから NPO、NGO による植林活動など多様な砂漠化防止に向けた活動が行われてきました。

もとより砂漠化は単なる自然現象ではなく、社会の変容にともなう人為活動に強く影響された複合的な課題であり、必要とされる研究や技術も、その地域の自然、文化、社会に適合するかどうか、あるいは、長期的な地域の持続可能性や社会の受容性といった面からの検証が欠かせません。

本シンポジウムでは、こうした観点から、アフリカ、中央アジア、東アジアで砂漠化防止に向けた研究・実践に取り組んできた3名の方々をお招きし、これまでの取組と課題を共有し、今後の研究と実践の両面について、その方向性を議論します。

2017年日本沙漠学会秋季公開シンポジウム 砂漠化と向き合う

— 研究と実践の融合に向けて —

主催：日本沙漠学会

共催：人間文化研究機構 北東アジア地域研究推進事業 東北大学 東北アジア研究センター拠点

後援：公益財団法人 国際緑化推進センター、筑波大学

会場

筑波大学東京キャンパス
文京校舎 134 講義室

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅出口1より5分程度

http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_campus.html



お問い合わせ

日本沙漠学会事務局

Tel: 03-3551-9896 (平日9時~17時)

Email: jaals@kyouritsu-online.co.jp